

傾城恋飛脚 新口村の段

大和新口(にのくち)村の百姓孫右衛門の子忠兵衛は、訳あって大坂の飛脚宿亀屋の養子となり、商才を発揮していた。しかし新町榎屋の遊女梅川になじみ遊興費にも事欠く有様。その梅川に身請け話が持ち上がり忠兵衛は向うを張って梅川を請け出そうとする。金に困った忠兵衛は友人丹波屋八右衛門のもとに届けられた為替金五十両を着服、手付けに当てる。事情を知った八右衛門は忠兵衛の行く末を案じ廓に行って一切を語り彼を寄せつけぬようにと頼む。それを立ち聞きした忠兵衛は立腹し、男の面目を立て梅川の無念を晴らそうと懐中していたお屋敷の為替金三百両の封を切って八右衛門にたたきつけ梅川を請け出して新口村に落ちて行く。

「梅川」と「忠兵衛」はやっと新口村にたどり着きました。この村は忠兵衛が生まれ育った故郷です。公金に手をつけてしまった忠兵衛には追手が迫っています。この村にも探索の手が回り、すでに二人の噂も伝わっていました。梅川を張り合う「八右衛門」までもが追って来ています。二人は死ぬ覚悟ですが、死ぬ前に故郷に行きたい、亡き母親の墓参りに行って嫁と姑の対面をさせたいと思って来たのです。二人は昔からの知合い忠三郎を頼りますがあいにくの不在、彼の「女房」に忠三郎を呼びに行ってくれと頼み留守家に身を寄せます。障子から外を窺うとまた雪、そこへ「道場参りの人々」が通り過ぎて行きます。その道場参りが誰なのか忠兵衛が昔を懐かしむように語り説明していると、父親「孫右衛門」が通りかかりました。二人は格子越しに手を合わせ、涙にくれます。そのとき孫右衛門が薄氷に滑って転んでしまいました。梅川が外に飛び出して上り口まで連れてきます。足を洗ったり、鼻緒をすげたり親切にしてくれるこの女性が誰なのか孫右衛門には分かりませんでした。自分の舅に似ているという話を聞き、やがて目の前にいる女性は嫁なのだ気付きます。涙を押し隠し苦しい胸の内を語る孫右衛門。梅川は忠兵衛に会わせようとしませんが、会えば世の義理で私が縄をかけねばならないと孫右衛門は拒みます。ならば顔を見ないようにと二人に目隠しをして親子を引き合わせます。抱き合う父と息子・・・「追手」が迫っているのに気づき、孫右衛門は村を抜ける近道を二人に教えます。だんだん遠ざかる息子と嫁をいつまでも見送り、どうか無事で逃げてくれと孫右衛門は手を合わせます。